



CONTENTS

- デジタルミュージックフェア
MIDI WORLD 2000 1
- 音楽と音響 3
- 音響技術 5
- MIDI検定2級レポート 6
- MIDI 検定実施予定 8

発行人：中田 健 (音楽電子事業協会)

編集人：大浜 和史 (JSPA)

編集協力：博秀工芸

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局
〒101-0061 東京都千代田区
三崎町2-16-9 イトービル4F
TEL. 03-5226-8550
FAX. 03-5226-8549

デジタルミュージック・フェア MIDI WORLD 2000

7月20日 (木) ~ 7月23日 (日)

デジタルミュージック・フェアは今年も「ばそまる2000」と併催にて東京ビッグサイト西ホールで開催されました。快晴の4日間に恵まれ、来場者数は「ばそまる2000」と合計138000人となりました。

出展はカシオ計算機、河合楽器製作所、コルグ、シーミュージック、第一興商、日本シンセサイザープログラマー協会、日本電子専門学校、松下電器、ミュージックネットワーク、ヤマハ、ローランド、音楽電子事業協会。各社新製品や新ソフトを展示、デモ演奏等を競い合い来場者を存分に楽しませていました。

◎特にミレニアムスペシャル記念として

1、「MIDIスペシャル・トップ・フォーラム

～電子楽器の発展と未来～

講演は和智正忠氏 (ヤマハ (株) 常務取締役 “電子楽器の開発”)、梯郁太郎氏 (ローランド (株) 取締役会長 “MIDI誕生と未来”)、富田勲氏 (作曲家・シンセサイザー奏者 “シンセサイザーと音楽”)



電子楽器の発展と共に歩まれた三氏の貴重なお話とあって、特設会場 (東京ビッグサイト会議棟6F) には早くから参加者がつめかけていました。音楽、映像を交えた興味深い講演は、予定をオーバーし2時間半にも及びましたが、180名の参加者は最後まで熱心に聞き入っていました。今後もこのような有意義で且つ楽しいフォーラム開催を望む声が大きかったようです。講演内容のポイントは「MIDIスペシャルトップフォーラムの内容」をご覧ください。

2、シンセサイザー・ミュージアム

「あの曲は、この1台から生まれた」

会場中央に作られたミュージアムは、Moogを始め歴代のシンセサイザーが展示された博物館。普段お目にかかれない往年のアナログ名機に注目が集まっていた。コーナーでは出展協力のJSPAスタッフによる説明、ステージでは松秀武樹氏、氏家克典氏の演奏、トークが繰り広げられ、多くの視聴者に感動を与えていました。

主な展示品

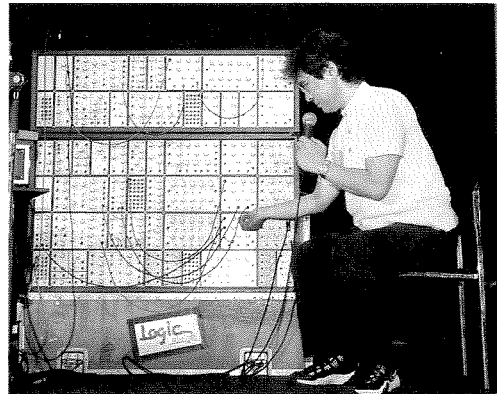
- ・ヤマハ：GX-1、DX7、VL1、Cs6x、Silent Ensemble Piano Pro2000、
- ・ローランド：SYSTEM700、Jupiter-8、SH-1、D-50、TR-808、JP-8000、VP-9000
- ・コルグ：PS3300、M-1、MS-20、MS-2000
- ・その他：Moog III C、Mini Moog、Prophet5、Oberheim OB-8、Arp Odyssey、Emulator、Lino Drum Modular

3、「MIDI古今東西ミレニアム講座」(MIDIをインターフェイスにすると、音楽はここまで面白くなるぞ！)

「シンセサイザー・テクノ・ルーツ」松武秀樹氏による演奏を交えた講演、MIDIや周辺機器の発展によって何が可能になるか、今後どのように変わって行くかを大変楽しく語っていただきました。

4、MIDI検定セミナー

各種のMIDI検定セミナーが毎日開催され、熱心な受講者が参加されました。「MIDI検定入門講座」「MIDI検定3級講座」「MIDI検定2級講座」「MIDIビジネス特別講座」



MIDI スペシャル トップ フォーラムの内容

第1部

「電子楽器の開発」電子楽器の登場と音源開発

電子楽器開発の歴史をビジュアルで分かりやすくご説明頂きました。電子楽器は新しい音、音楽が創造でき、技術の進歩と共に革新が期待できるものとの定義があり、電子楽器の基本となる技術はグラハム・ベルによって発明された電話技術に始まり、真空管、トランジスタ、CPUの技術革新と共に発展してきた事を挙げられました。初期のテレハーモニュームは1音を発生するローターは人間大の大きさがあり、それぞれの倍音と61鍵盤分の音を発生する設備を備えるには紡績工場のような巨大な建造物になったお話、又それらの演奏をレストランなど離れた場所へケーブルで送るアイデアは、現在の音楽配信の始まりである事は大変興味深い事柄です。電子楽器の開発用機材は当時億単位の相当な金額であった事など、さらに興味深い話題が盛り込まれていました。アナログ、FM音源の説明の後、物理モデルに付いては壇上の両脇にロープを張り、音の基本である波形の動きを棒で叩いて揺れる波、折り返す波を見て実感してもらおうとの試み。実に明解な解説ゆえ会場では満場一致で納得させられました。

講師：和智正忠



第二部

「MIDI誕生の背景とこれから」MIDI誕生と未来

1935年のハモンドオルガンの登場を、完成された電子楽器の元年とすれば、電子楽器の商業化はまだ65年である事。アコースティックな楽器では定着しているスタンダードが大切である所からお話は始まりました。各メーカーから開発されるようになったシンセサイザーは、1オクターブを1ボルトとする方式と、0.1ボルトをオクターブ(12倍)で12ボルトとする方式など標準化は難しかった中で、電子楽器にスタンダードが必須であると実感され、デジタル化を迎えた時にMIDIがスタンダードとなったことは非常に重要なことと話されていました。1982年のNAMMショーで初めて、メーカーの異なる電子楽器がMIDIで接続しお互いに交信できた瞬間は感激的であったと述べられています。MIDIも計画当初にはパラレル転送などの意見もありましたが、現在のスタンダードとなり得たのは、合理的な方法でシリアル転送に絞った事が正解であったと語られました。高い圧縮率と合理性を持つMIDIはこれからも不変であり、活用されるべき要素がまだ沢山残っていると。最新機種もMIDIでコントロールしている様子をバリフリーズを通して説明頂くなど、MIDIの可能性と未来を熱く語って頂きました。

講師：梯 郁太郎



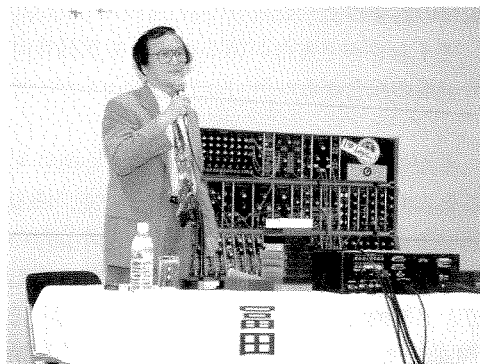
第三部

「シンセサイザーと音楽」 音楽と音響、映像と音楽

講師：富田 勲

冒頭にNHKの特別番組で「ナスカの地上絵」を訪れ、冒険心と共に音響から音楽に興味を持たれた富田会長の原点がビデオで紹介され、講演はMOOGシンセサイザーを使った苦労話から始まりました。(写真)

マニュアルの無いアメリカ製の機器に、単音1つ出すにも多くの配線と手間で格闘された事。ロータリースピーカーの音響効果得る為に、ターンテーブルに乗せたスピーカーを回転させ録音された事など、様々な音楽(音)作りのエピソードを聞く事ができました。他で聞くことの出来ない4チャンネル音響の作品再生には、工夫を凝らしたその作品「月の光」「パンフィック(機関車)」に、会場にいた多くの方が感銘を受け感動されていました。さらに現在も精力的に作品を制作され、表現方法においてはMIDIを活用されている事を通じ、これからの若い方を励ますと共に、日本のメーカーが発展させた現代の電子楽器は、昔海外から伝わった楽器が日本の和楽器として現在に残るように、もはやMIDI機器も和楽器とも言えるなどのお言葉を残し、今回のフォーラムの最後を美しく結ばれていました。



音楽と音響

新世紀へ向って自由奔放な自己表現を

富田 勲



辛かったオール・アナログ時代

ここ10数年のMIDIの進歩は目を見張るものがあり、僕としては正直言ってこれ以上の進歩は必要ないと思うほどのところまで来ている。

というのは、1972年にシンセサイザーを始めてからMIDIが現われるまでの10年間は、あまりにも不便なアナログ・シーケンサーを鞭打って、いま思うと1年4ヶ月という膨大な無駄な時間を費やして、はじめてのシンセサイザーのみで演奏したLPアルバム「月の光」(国外名「Snowflakes Are Dancing」)を製作した経験からして、いまそれを思うと夢のようである。

もちろん、当時はシンセサイザーという名は誰も知らず、指導書のようなものはどこにもなかった。モーグシンセサイザーはひとつの楽器かと思ったら、電圧で制御される47個のモジュールやエフェクターがいくつかの木箱にはめ込んであり、背後からは各モジュールに電源が供給されているだけで、すべてのパッチは前面のパネルにコードをつなぎ、数多いボリュームでイメージする音に調整していくのだが、一音でもたいへんな時間がかかり、複雑になるとコードが蜻蛉配線以上になって蜘蛛の巣のようになる。

すべてが電圧制御なので、手を良く洗ってから始めないと、プラグに指紋などが付くと、接触不良を起こし、あっという間に半音ぐらいの音程は狂ってしまう。それでやっと一音しか音が出ないという代物。

したがって、その頃出たばかりの16チャンネルのマルチ・テープレコーダーに、1チャンネル1音づつ録音してピ

ンボンしながら音を足して行くのだが、もちろん16チャンネルのうちの1チャンネルはカウント(ドンカマ)でつぶれてしまうので、実質は15チャンネル。

隣のチャンネル同志で再生・録音をすると発信してしまうので、ピンボンの相手は遠くのチャンネルに録音しなくてはならない。これも複雑になるとチャンネルのやりくりが大変な事になり、車が混雑した時の駐車場の誘導係りのようなになる。疲れてくるとうっかり主要な音を消去してしまうなんていうミスもやる。

その頃のシンセサイザーは記憶装置がなく、ましてやサンプラーやハード・ディスクもない頃なので、次の音を作るためには一切をばらさなくてはならず、その瞬間にせっかく苦労して作った音は消滅する。で、また、最初から配線と調整を始めるわけだが、前の音が再び必要になった時に、いくらボリュームの位置をメモしておいても、20個ほどになると、それぞれに微妙な誤差が生じ、それを通過した末端では近い音は出ても、2度とまったく同じ音は出ない。すべてがアナログであるゆえんである。

接触不良を解消してもピッチは不安定で、電圧制御なので一箇所の音を合わせても、スケール幅の調整を怠ると、鍵盤上(実は鍵盤という形をしたボリュームに過ぎない)はオクターブでも、それによって出てくる音はオクターブにはならないのだ。

24ステップしかないアナログシーケンサーも、1ステップづつの音程は、ボリュームをまわしながら直流電圧の高

低で決めるので、最後の方のピッチをあわせている間に、最初の方のピッチはもう変っているので、また再調整しなくてはならない、ボリュームを通る電流による微妙な熱の変化の影響のようだ。

タイムコードもない頃なので、多重録音の際のシンクロは至難の技となる。

まだまだいろいろあるけれども、いちいち全部書いているとこれだけで話が終わってしまうので、過去のことはこの辺でやめることにする。まるでヨーロッパの産業革命以前の蒸気タービンの実験の思考錯誤時代の話しをしているようだ。寝袋で床にじかに寝て1~2時間寝るとまた続きをやる。よくこんなことをして、身体を壊さなかったものだ。

すばらしいMIDIの進歩

だから僕にとって現在の音源モジュールやMIDIは、それからすると、まさに夢のような存在で、これ以上なにも云う事はない。あとはこちらの操作する技術と音楽性を磨くのみである。

コンピュータ・グラフィクスも、いまや良くできたものは実写の映像と見分けがつかないところまで来ているように、相性の良いシーケンサーと音源モジュールの優れたプログラムは、部分的には実録のオーケストラと区別のつきにくいところまで来ていると思う。

オーケストラの演奏とMIDIによる演奏

しかし、オーケストラの場合は大勢の様々な思考を持った演奏家たちが心をつなげて曲を演奏しているのに対して、MIDIによる打ち込み演奏は、どんなに分厚い音がしても、僕が一人で打ち込んでいる以上、できあがった演奏はソロ演奏である。

松竹映画の山田洋次監督「学校」シリーズの音楽は今回もオーケストラではなく打ち込みの方法をとった。「学校IV」は「源氏物語交響絵巻」のコンサートのあとでもあり、オーケストラにしようかと一瞬思ったのだが、この映画は、あくまで横浜から屋久島の縄文杉を見たい一心でヒッチハイクした15才の少年の物語で、一人の少年に焦点を定めている以上、MIDIによる僕のソロ演奏という形をとった方が、この映画にはふさわしいと判断した。

そして利点といえば、監督から現場での急な変更が出た場合のエディットがオーケストラの譜面を書きなおすよりも簡単であることもあるが、それが第一の理由ではない。かたや同じ頃、メディアファクトリーから依頼された巨人長嶋を描いたビデオ『21世紀への伝説史 長嶋茂雄』の音楽は、ブラスを中心にしたオーケストラで、すべて生演奏である。スポーツという印象から集団的演奏の方が合うからだ。

「源氏」の場合はオーケストラが主体であるが、浮遊する生霊の表現などはシンセサイザーが得意とする分野なので、ローランドのRSS効果も交えて、異次元の世界を表現した。したがって「源氏」は、その両方を使用した。

限りなく広がった表現手段

このように昔と違って表現手段がいくつも出てきたと云う事は、ミュージシャンにとってはそれだけ表現範囲が広がり、すごい時代となった。その上スタインバーク社から出された新製品ヌエンドは、作曲者がスコアの上にオーケストラの楽器を書き込むように、立体音響設定時の楽器の位置や動きを作曲者自身が操作しながら設定でき、DVDオーディオ時代を先駆けて立体サウンドを無駄な時間と労力を費やすことなく構成できるようになった。

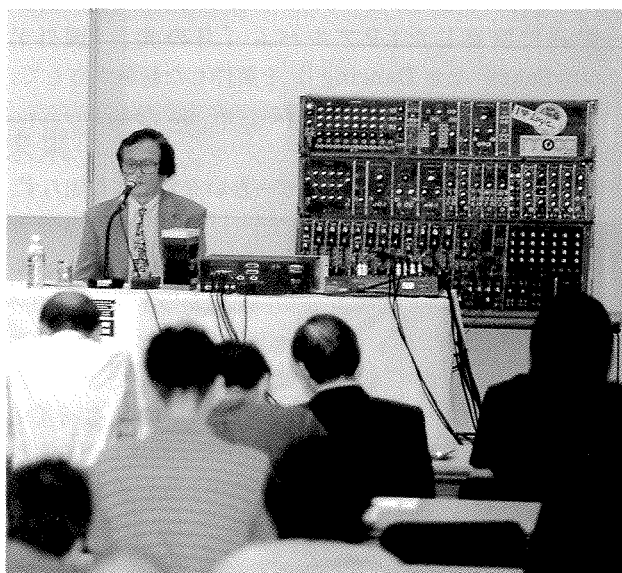
僕は現在ディズニー社から依頼されている、来年秋にオープンのディズニー・シーの常設の立体サウンド「アクア・スフィア」では、今まで得た技術や手法をを総合して作曲したいと考えている。

後に続くチャレンジャーに いままでの手法を伝えたい

振りかえれば、僕は昭和27年（1952年）の学生時代、電子楽器なんて云うものはまだ一般的には影も形もなかった頃、アコースティック楽器を使用してプロとしての仕事入りをして以来、あと2年で半世紀になる。なにも長くやってきたから良いと云うわけではないが、その間、失敗あり成功ありで悲喜こもごもの様々な経験をしてきた。しかし、どのような状況であろうと、音楽を作ることの喜びが止められず、いまだにその幼児性が抜けていない。

いままでの僕の経験を、真剣に新時代の音楽を目指す若いミュージシャンの卵にノウハウとして与えるレッスンを、とくに来年から本格的に考えている。願わくばそれが基盤となって、さらに将来、彼らが新しい境地を開いていってくれることの手助けになればと夢見ている。

富田 勲



音響技術

富田 勲／源氏物語交響絵巻コンサート 演奏参加レポート

篠田 元一

「富田 勲・源氏物語交響絵巻コンサート」は、空前のベストセラーとなった瀬戸内寂聴女史の現代語訳「源氏物語」をテーマに、富田先生が音楽化（作曲・編曲・指揮）をはかったものです。フル・オーケストラに加えて、和楽器、シンセサイザー（僭越ながら篠田が担当）によって表現される独創的な音楽と、巨大なハイビジョン映像をステージ後方に、さらにステージ前方には能舞台（日本公演のみ）をセットし、視覚面、音楽面ともに立体表現するという大規模なコンサートでした。

公演は1998年11月22日／NHKホールに加え、1999年5月11日はロサンゼルス、1999年6月22日はロンドンで行われました。新しい試みが盛り込まれた画期的なコンサートであるだけに、仕込みや演出面などは大変だったのですが、すべての本番ステージは無事大成功を納めることができ、文字通り幻想的な“交響絵巻”が展開されました。

僕自身はチェレスタ系やピアノ音色で平安旋律を基調としたフレーズを弾くというのが主なパートでした。先生の指揮のもと、オーケストラとともに、まるで“生きもの”のように揺れまくるテンポの中での演奏はとても勉強になりました。

また曲中の「生霊が浮遊する夜」では、ローランドの立体音響システムRSSを使い、生霊サウンドがホール内を駆け巡るというコワ〜イ効果を音楽的に演出する場面があります。ここは作品のひとつのハイライトと言ってもいいでしょう。客席内に何台ものスピーカーが配置され、四方八方から怖くて不気味な生霊サウンドが立体的に飛び交うというものです。

ここでの僕の役目は、RSS処理されたサウンドやフレーズ素材をあらかじめ10台近くのサンプラーに収録しておき（音素材は富田先生が制作）、それらを鍵盤にたくさんアサインしておき、先生の指揮を見ながら随時鳴らし分けていくというものです。先生はバックのハイビジョン映像とのリンクも考えながら指揮をしますが、手弾き演奏の合間にも、譜面上に素材の鳴らし場所が細かく指定されており、素材を一発トリガーするにもとても緊張が走りました。また、サンプラーがトラブって上手く鳴らなかったら、楽曲はまったくの素の状態になってしまいます。どの公演も、本番前は祈のような気持ちでサンプラーへの拝みを欠か

せませんでした（笑）。

ところで、富田先生は今作を作曲するにあたり、Studio VisionとDTM音源一台だけでデモを制作しています。これはステージで流すハイビジョン映像、それに我々演奏者の資料用ということだったのですが、デモなんてとんでもありません。1台のDTM音源でここまで鳴らせてしまうのか、とても信じられないものでした。特に和楽器の笛や琴の表情付け、ストリングスの豊かな広がりには感動モノです。先生は、このデモから実際のオーケストラのスコアを起こしています。当然、打ち込みから実際のスコア化の段階で、アレンジ的にも種々の変更が加えられていますが、演奏時間約75分の大曲ですから、相当なスコアになるのは想像できるでしょう。どの公演もリハーサルは少なかったのですが、大成功を収めることができたのは、スコアの素晴らしさの証と言ってもいいでしょう。

なお、「源氏物語交響絵巻コンサート」の全公演に関する詳細レポートは僕のホームページにもアップしています（<http://www.moto-music.co.jp/>）。併せてご覧ください。

とにかく、僕自身、富田先生と共に海外を含めて大きな舞台上に上がった点に加えて、ロンドン・フィルをはじめとする超一流のオーケストラと共演できた点は大きな経験になりました。どの公演も演奏を終えれば、満席のスタンディング・オベーション！これも感動的で一生の思い出です。

最後に、NHKホールでの模様は限定ですがCD化されています（『トミタ・サウンド・クラウド 源氏物語交響絵巻』／パイオニア PICW1024）。また、2000年11月にはロンドン・フィルとのスタジオ収録盤が日本コロムビアより発売されますので、ぜひ聴いてみてください。



平成11年度「第2回MIDI検定試験・3級」の実施結果

社団法人音楽電子事業協会では、音楽情報を効率よく伝達するための規格「MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 規格」を理解し活用できる人材育成を目的として、日本シンセサイザープログラマー協会 (会長：福田勲) の協力を得、「第2回MIDI検定試験 (3級)」を「平成12年1月23日 (日) 午後1時30分より (90分)」、全国 (東京、大阪、名古屋を始め全国主要都市) 71会場にて実施致しました。受験応募者は約3,000名 (正確には2,737名) にのぼり、改めてMIDI関連、デジタルミュージック関連の音楽制作に興味と関心をもつ若者の多い事 (問合わせ件数受験案内請求は6000名強) が実証されました。

合格者は1,542名 (合格率64.9%)、2月10日AMEIホームページ上にて合格者受験番号を公表し、「3級合格証—MIDI LICENSE—カード (ブルー)」を合格者全員に郵送致しました。

◎MIDI検定試験の目的

発展を続けるマルチメディア社会の中で、文字や映像などと並び、重要な要素の一つに音/音楽があげられます。そしてマルチメディアの音/音楽の中で中心的な役割を果たしているのが、いわゆるMIDI規格です。MIDI規格は、電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽のソフトウェア、コンピュータネットワークでやりとりされる音楽データや、通信カラオケの送信データにいたるまで、電子音楽の事実上の標準規格となっています。

この様な状況のなか、MIDIを使った音楽制作の現場では、MIDIに関する知識を持ち、データの制作・監修ができる人材が求められています。

「MIDI」規格の管理・推進は社団法人音楽電子事業協会が一元的に行なっています、「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会の登録商標です。

平成12年度「第1回MIDI検定試験・2級」の実施結果

2級検定試験では音楽制作現場で即戦力として活躍できる人材の育成と認定を行なうもので、認定試験のレベルは高度な基準が求められますが、企業現場に音楽制作のプロとして推薦できる人材の育成と認定を目指しております。

・2級1次試験 (筆記)

平成12年5月28日 (日) 午後1時30分より90分

筆記試験受験申込者 979名

1次筆記試験合格者 350名

・2次実技試験が7月11日より29日にわたって東京・大阪・名古屋のヤマハ、ローランド、アップルコンピュータ、日本工学院八王子校、名古屋自由学院短期大学会場にて実施されました

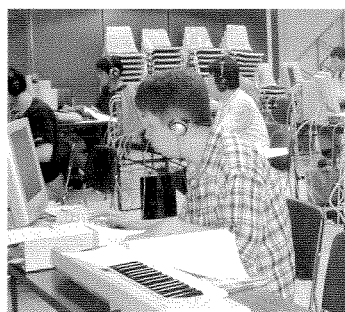
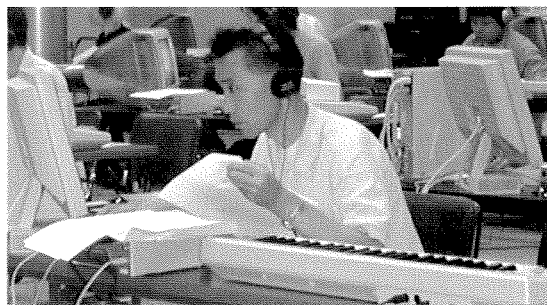
実技受験者 323名

2級合格者 127名(2級受験者総数に対し14.8%)
(2級2次実技試験受験者に対して39.3%)

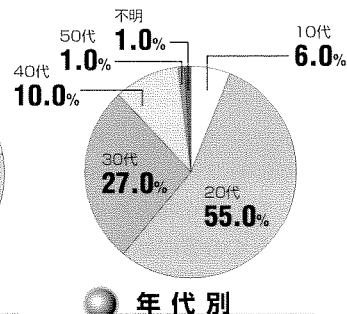
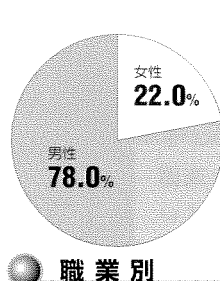
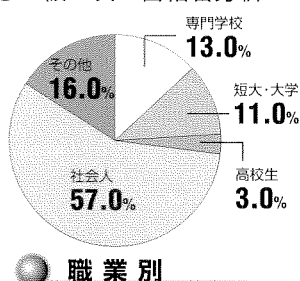
- ・合格発表はAMEIホームページ上にて8月30日実施、合格者には「MIDI LICENSE カード (シルバー)」を授与いたしました。(1次筆記試験のみの合格者には2級1次認定カードを送付いたしました—3年間有効)
- ・協力会社 アップルコンピュータ (株)、(株) インターネット、(株) オービットミュージック、カモンミュージック (株)、富士通 (株)、(株) ミディア、(株) メガフュージョン、ヤマハ (株)、ローランド (株)
- ・使用ソフト Performer、Cubase、VisionDSP、Singer Song Writer、Cakewalk Proaudio、XGwork、Logic Audio Gold、Recomposer

◎MIDI検定試験2級合格者地域別分布

地域	受験者数 (申込み)	受験者分布 (%)	1次合格者 (筆記)	2次合格者 (実技)	分布 (%)
北海道	28	3	8	2	1.5
東 北	21	2	9	4	3.1
関東甲信越	565	58	200	67	52.8
東 海	104	11	39	15	11.8
近畿四国	219	22	81	32	25.2
中国山陰	16	1	8	5	3.9
九 州	28	3	5	2	1.5
合 計	979	100	350	127	100



◎2級2次 合格者分析



◎MIDI検定試験2級合格者 (127名)

●100点合格者●
福田 淳
加藤美穂子
辻井 岳士

会津 朋美	岩月 博之	小野 努	上月 典弘	高橋 哲也	野口 知美	本間 邦彦
相原 耕治	呉 万新	小野本真理子	後藤 千晴	武井 靖明	長谷川 純一	舛田 智
赤崎 達也	上田 一浩	小山 豊	後藤 章一	千葉 道代	服部 麻衣子	増永 匡志
赤松 英吾	宇野 正紀	籠味 正樹	後藤 忠則	鶴岡 健	飛河 和生	三村 誠一
渥美 健	漆野 武夫	片山 正章	五味 葉子	寺岡 基臣	平井 大生	宮浦 佳江子
荒田 有輝	大久保拓也	角 幹子	古村 征紀	戸田 裕一	平井 良康	宮川 勝明
五十嵐正行	大久保 将	加藤 健介	近藤 晶子	朽谷 綾香	平塚 賢	宮城 恵多
石井 太	大嶋 啓之	加藤 雅春	斎藤 薫	飛田 基行	平本 順一	宮倉 恭子
石川 洋一	大竹 千佳	金原 豪士	斎藤 鈴	友田 真吾	深見 真帆	宗原 吉則
石山 裕子	大西 潤一	亀山 富志雄	坂上 智之	内藤 信宏	福島 大地	村上 史恭
井手上 猛洋	大西 孝之	河村 雅之	坂田 憲治	中島 達也	福永 剛	目黒 匠
伊東 直喜	大平 丈郎	北野 洋平	佐々木 智子	中野 実	福中 浩太郎	森 慎太郎
伊藤 直幸	大室 秀晃	日下 麻緒	佐野 雄二	中原 健太郎	福原 姿子	山口 隆啓
今井 充	岡田 大孝	工藤 英司	柴 徳昭	中村 和憲	藤田 大輔	山田 貴代子
今瀬 博	押谷 扶美江	久保 淳人	柴田 孝一郎	中村 志郎	藤本 理江	山田 千秋
		久保 和幸	下村 愛理	中村 真佐子	古橋 秀美	山本 知世
		蔵本 誠	城間 一郎	成 沢 忠	堀 尚史	横江 俊一
		栗林 雅人	須賀 真	仁木 貴之	堀 艶子	吉田 竜彦
		桑原 理一郎	関 和宏	新田 誠	堀 孔明	

MIDI検定2級 実技試験レポート

— 今回問題の要点と状況 — 上杉 尚史

先日、初めてのMIDI検定2級実技試験合格者が発表されました。合格者数127名という何ともMIDIらしい数字です。今回は私が委員として関わったMIDI検定実技試験に付いて、その内容や合格者の傾向をまとめてみました。今後2級実技試験を受けられる方は、受験対策の参考にして頂ければと思います。

実技試験は春に行われた2級筆記試験の合格者を対象とした試験です。今回は323名の受験がありました。

受験応募された方には、課題曲のスコア及びMIDIデータが事前に配布されました。試験は課題曲内容を理解した上で、試験当日に課題曲データの一部を入力または修正し仕上げるものです。試験は課題曲完成データから部分的に削除、変更したデータが与えられ、それを完成データに近い形に直していくというものです。

入力箇所10カ所、修正箇所10カ所の合計20の設問を行い、80点以上で合格となります。

今回の課題曲はラベルの「ボレロ」です。前半部分がクラシカルなオーケストラアレンジ、後半部分はRock系のアレンジとなりました。基本的なクラシック系の楽譜入力から、ドラム譜の再現、エレキギターの表現（バンド入力）まで、様々なテクニックが要求されました。

データを入力する問題は出来た方が多かったようですが、譜面と照合しながら修正ポイントを探していく作業となると意外に大変のようでした。最後まで修正箇所を探し出せなかった方も数多く見られました。

採点時に誤りの多かったポイントとしては、楽譜とノートデータとの照合（ギター、ベース、ピッコロパートの楽譜と実音の関係）、シンコペーションの入力及び修正におけるタイミング、ドラムパートの細かい表記（オープンハイ

ハットの位置違いを見逃す等）が上げられます。ギターのバンドデータも難関のようでした。いずれも1トラックずつ地道にチェック、クリアしてゆけば出来る問題です。今後受験予定の方、再度挑戦される方は確実な作業と適切な時間配分を心がけて下さい。（プロの心得でもあります）

また、今回最も問題となったのがファイル名やファイルフォーマットなど、レギュレーションが出来ていない人があまりにも多かったという点です。スタンダードMIDIファイルに1トラックしかデータが書き出されていなかったり、ファイル名が元のファイルのままだったり、惨憺たるものでした。中には試験会場でフロッピーディスクにコピーできないという人や、バックアップをとらずに作業を進めて、試験終了間際にファイルを失った人もいました。作業内容が完璧でも、データを提出できなくては意味がありません。これは仕事で作業するセオリーとしても大切な事です。

2級実技試験は専門家としての技能を審査される訳ですから、シーケンスソフトの使い方だけでなく、実務的なOSの知識は持っている必要があると思います。

音楽知識、MIDIの知識、コンピュータなどのハードウェアやソフトウェアに関する知識、さらには作業の正確さが求められたこの実技試験は、筆記試験の受験者総数から考えると、合格率は15%弱という狭き門となりました。この難関を突破して合格された方々は、是非MIDIの発展と普及のために活躍して頂きたいと思います。又今回の試験で合格点に満たなかった方の中にも、実力を発揮できなかった方も多数いらっしゃると思います。来年早々にまた試験が開催されますので、是非頑張って挑戦して下さい。

平成12年度MIDI検定試験実施予定(3級、2級)(平成13年1月)

名称：平成12年度「第3回MIDI検定・3級」試験・平成12年度「第2回MIDI検定・2級1次」筆記試験

主催：社団法人音楽電子事業協会

共催：日本シンセサイザープログラマー協会

協力：社団法人音楽電子事業協会 会員企業

実施日：平成13年1月28日(日) 3級 午後1時～午後2時30分(90分)

2級筆記 午後3時30分～午後5時(90分)

2級実技は平成13年3月5日～30日を予定(全2級筆記合格者に別途案内を送付)

受験料：3級…¥3,000、2級1次(筆記)…¥4,000、2級2次(実技)…¥10,000

受験資格：2級については、3級ライセンスカード所有者(3級合格者)である事が必要。但し、1月28日同日3級&2級1次を受験する事が可能。

合格点：3級&2級筆記 いずれも80点以上が合格

応募期間：3級&2級1次筆記試験 10月16日～11月30日

申込方法：「専用受験案内」綴じ込み受験申込書にて協力校窓口又は綴じ込み郵便振込み用紙で直接 社団法人音楽電子事業協会に申込む

社団法人音楽電子事業協会 TEL：03-5226-8550

協力校&試験会場(筆記試験：全国主要都市 80会場)(実技試験：東京、大阪、名古屋)

◎12年度協力校&試験会場(筆記試験)

(東京・横浜)

アイデックスミュージックアカデミー
音響技術専門学校
学)東海学園 神奈川情報文化専門学校
菅原学園専門学校デジタルアーツ東京
総合学園ヒューマン・アカデミー東京校
*東京工科大学
*東京スクールオブミュージック専門学校
東京ビジネス専門学校
*東京ビジュアルアーツ
東放学園放送専門学校
日本工学院専門学校
*日本工学院八王子専門学校
日本電子専門学校
*メーカー・ハウス
ヤマハ音楽院
代々木アニメーション学院
(九州)
専門学校九州ビジュアルアーツ

(広島)

広島コンピュータ専門学校
広島工業大学専門学校
(大阪・京都・神戸)
キャットミュージックカレッジ専門学校
JEUGIA三条本店
ディプス/コンピュータミュージッククラブ/DEE
*職業訓練法人/大阪ヒューマン・アカデミー
*神戸電子専門学校
(名古屋)
大垣女子短期大学
名古屋音楽大学
名古屋自由学院短期大学
名古屋ビジュアルアーツ専門学校
(仙台)
*専門学校デジタルアーツ仙台
日本コンピュータ学園・東北電子計算機専門学校

(北海道)

札幌科学技術専門学校
(新潟)
新潟会計ビジネス専門学校
(島村楽器店)47店
旭川、札幌、釧路、八戸、秋田、仙台、利府、宇都宮、水戸、大宮、新所沢、津田沼、新浦安、市川、千葉、成田、新宿、八王子、錦糸町、平井、船堀、横浜、本牧、港北、名古屋、鈴鹿、新潟、金沢、長野、松本、岡崎、和歌山、大津、神戸、姫路、岡山、米子、広島、松山、高松、小倉、福岡、熊本、佐賀、大分、佐世保、長崎

*は外部受験者を受け入れません(当該校の生徒のみ)

◎MIDI検定試験の内容

・3級出題範囲(MIDI規格1.0に準拠)

「MIDIの基礎」…音楽情報の伝達、バイトとビット、MIDIケーブルの接続
「ノートデータ」…ノートオンオフ、ベロシティ、ゲートタイム、タイミン
「MIDIメッセージ」…MIDIチャンネル、ステータスとデータ、メッセージの種類
「コントロールデータ」…音色の切替、ピッチベンド、コントロールチェンジ
「システムメッセージ」…システム&メーカー、エクスクルーシブ、
「MIDIの知識」…MIDIの歴史、アナログシンセの基礎、GM&SMF

・2級出題範囲(MIDI規格1.0に準拠)

「セッティング」…機材接続と環境設定、インターフェイス、ソフトウェア、セットアップ
「フォーマット」…ハードウェア規格、SMF、GM、SMFL
「シンセシス」…シンセサイザ概論、音色知識、音源知識
「コントロール」…楽譜情報、ノート情報、コントロール情報、演奏表現、
「エフェクト」…音響効果とエフェクター、リバーブ、ディレイ、コーラス
「シンク」…シーケンサー外部同期、MTC、SMPTE、MMC
「マルチメディア」…ソフトシンセ、インターネット、Audioファイルの活用、応用

◎MIDI検定公式ガイドブックの発行

「MIDI検定3級公式ガイドブック」：定価¥2,000プラス税

「MIDI検定2級公式ガイドブック」：定価¥3,800プラス税

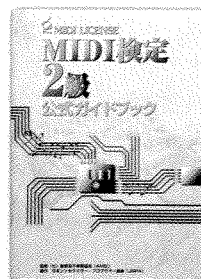
「MIDI検定2級実技試験公式ガイドブック」：発刊予定13年2月、価格未定

MIDI規格1.0準拠、MIDIの基礎知識を網羅。発行・販売 社団法人音楽電子事業協会

著作・制作 日本シンセサイザープログラマー協会

◎MIDI検定についてはAMEIホームページをごらん下さい。URL <http://www.amei.or.jp/>

◎デジタルレコーディングに付いての情報は、AMEIデジタルレコーディングホームページをごらん下さい。URL http://www.amei.or.jp/report/DR_Div/report1.html



社団法人音楽電子事業協会
ASSOCIATION OF MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9 イトービル4F

Tel : 03-5226-8550 Fax : 03-5226-8549 URL <http://www.amei.or.jp/>